

＜中学校 学年経営＞

やる気を持って学習活動に取り組む生徒を育てる学年経営

－目標設定の指導と学年の協働支援を通して－

糸満市立高嶺中学校教諭 垣 花 英 正

内容要約

「やる気」を自己決定感、自己有能感、他者受容感の高まりとして捉え、メンタルトレーニングの手法を用いた効果的な目標設定の方法を指導した。生徒の目標達成に向けて、学年の支援体制を整え、学年教師が協働して支援した。その結果、生徒は明確な目標を持ち、その達成に向けて学習計画を立て、やる気を持って学習活動に取り組むようになった。

【キーワード】 やる気 学年の協働支援 目標設定 メンタルトレーニング

目 次

I	テーマ設定の理由	61
II	研究内容	62
1	学年経営について	62
2	やる気について	62
3	やる気を引き出す目標設定の方法	62
4	学年の協働支援	64
III	研究の実践	64
1	目標設定の指導（実践1）	64
2	学年の協働支援の実際（実践2）	67
IV	研究の考察	69
1	生徒は目標を設定することができたか（自己決定感）	69
2	生徒は目標達成感を味わったか（自己有能感）	69
3	生徒は周りの支援を感じるようになったか（他者受容感）	69
4	生徒は意欲的に勉強できたか	70
V	研究の成果と今後の課題	70
1	研究の成果	70
2	今後の課題	70

＜中学校 学年経営＞

やる気を持って学習活動に取り組む生徒を育てる学年経営

—目標設定の指導と学年の協働支援を通して—

糸満市立高嶺中学校教諭 垣 花 英 正

I テーマ設定の理由

学習指導要領においては、生徒に「生きる力」をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動、特色ある学校づくりを求めている。そして「生きる力」の定義の一つに、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」とある。生徒が自ら学び、考え、行動するには何か目標が必要である。目指すものがないとなかなか行動に移せないからである。そこで、生徒に目標を持たせ、その達成に向けての努力を支援することが重要な教育活動の一つだと考えられる。

教育活動の中心は日々の授業を主とした学習指導である。これまで学年主任や学級担任として、生徒に学期ごとの学習に対する目標、教科の目標や単元ごとの目標、さらに定期テストに対する目標など、様々な場面で目標を設定させ、達成に向けて取り組ませてきた。しかし、生徒が目標に向かって、やる気を持って自主的に取り組む姿がみられない場合があった。その主な原因として次の二つが考えられる。一つ目は、目標を設定させる際、ただ生徒任せになり、学級担任として効果的な目標設定の方法を指導していなかった。二つ目は、目標達成に向けて生徒へ支援する際、学級担任任せになり、学年主任として教科担任や学年全体での支援体制を整えることができなかったことである。中学校は教科担任制であり、複数の教師が生徒の授業を担当する。本校は小規模校のため、各教師は学年に所属するすべての生徒の授業を受け持っている。したがって、学年経営において、学年教育目標の達成に向けて学年教師が計画的、組織的に協働して取り組むのと同様に、生徒個々の目標設定の指導や目標達成に向けての支援も学年全体で取り組むことが可能である。

本研究では、メンタルトレーニングの手法を用いて、生徒が達成に向けてやる気を出せるような目標の設定の仕方を工夫するとともに、学年教師全体が生徒の設定した目標を把握し、達成に向けての手だてや方策を確認し、学年が協働して支援していける体制を整えたい。メンタルトレーニングは、スポーツ界で実践されてきたが、近年はその理論がビジネス界でも応用され、多くの成果を上げている。メンタルトレーニングでは、各自にあった明確な目標を設定させ、達成する姿をイメージし、プラス思考で取り組むなど、いくつかの手法を用いることにより、選手や社員の能力が引き出され、やる気をもって目標達成のため努力するようになる。その手法を学習意欲を高める手だてとして生かせるよう工夫し、目標設定や目標達成への支援の手段として用いれば、より生徒のやる気を引き出すことができると考えられる。

そこで、メンタルトレーニングの手法を学習意欲を高める手だてとして生かす工夫をし、学年としてそれを実践し、生徒の目標達成に向けて協働して支援すれば、生徒がやる気を持って学習活動に取り組むであろうと考え、本テーマを設定した。

＜研究仮説＞

学年経営において、以下のような手だてを行えば、生徒がやる気を持って学習活動に取り組むようになるであろう。

- 1 やる気を引き出す目標設定の方法を学年教師が理解し、それをもとに生徒に目標を設定させる。
- 2 生徒の設定した目標を学年教師が把握し、目標達成に向けて協働して支援する。

Ⅱ 研究内容

1 学年経営について

(1) 学年経営

学年経営とは、学校の教育目標を達成するために、学年の教師集団が学年目標を設定し、その達成に向けて計画的、組織的に協働して教育活動を実施していく経営的な働きである。

1960 年半ばにおいて、従来からの単に学級間の調整や連絡のための学年経営から、学校経営と学級経営とを結びつけて一体化を図る学年共同体としての学年経営への転換がみられた。そして、1980 年頃を境に不登校やいじめなど複雑な教育問題が増加するに従って、学年教師が協働して取り組む学年経営がいっそう重視されるようになった。

今日においては、総合的な学習の推進、開かれた学校づくり、学校・学年評価への注目が向けられるなど、ますます協働による教育活動を実践する学年経営が求められている。

(2) 教科担任制を生かす学年経営

教育活動の中心は日々の授業を主とした学習指導である。そして学年経営はそれを円滑に進めるための整備機能である。中学校は教科担任制であり、複数の教師が生徒の授業を担当する。一人一人の生徒に複数の教師の目が注がれることによって生徒理解はいっそう深まることになる。従って、教科担任と連携しながら生徒の学習状況を学年教師が把握し、その生徒にあった支援を協働して行うことが望ましいと考えられる。また、協働して取り組むことによって教師自身も向上しようと努める。そのことがひいては学年の向上へとつながることになる。

2 やる気について

やる気を出させるきっかけを「動機づけ」といい、大きく分けると、「外発的動機づけ」と「内発的動機づけ」に分けられる。外発的動機づけとは、外部からの報酬や罰によって動機づけられる場合で、学習活動は単に手段の役割をはたすことになる。内発的動機づけとは、賞罰という外的な強制力がない状態で動機づけられる場合で、学習することそれ自体が目的であり、そこから得られる達成感、充足感が報酬となる。本当の意味でのやる気といえる。

(1) 外発的動機づけから内発的動機づけへ

短期的には、賞罰による外発的動機づけは、強力で効果的である。しかし、長期的にみると、内発的動機づけによる行動の方が量的にも質的にも高い効果を上げることが実証されている。

しかし、外発的動機づけを決定づける報酬は、内発的動機づけをいつでも妨げているわけではない。外発的動機づけがきっかけとなり、内発的動機づけになることもある。行動が自己決定しているならば、外発的動機づけから内発的動機づけへ移ることができる。

(2) 内発的動機づけを高めるには

内発的動機づけの要素は次の三つである。

- ① 自己決定感・・・人にやらされるのではなく、自分のことは自分で決めるんだという気持ち。
- ② 自己有能感・・・自分ならがんばればできるんだという気持ち。
- ③ 他者受容感・・・自分は周りの大切な人から受け入れられているという気持ち。

この三つの要素が高まれば自ら学ぶ意欲をもたらす。

生徒がやる気を持って学習活動に取り組むためには、努力すれば達成できる自分なりの目標を立てさせること（自己決定感につなげる）、達成の喜びを感じさせること（自己有能感につなげる）、達成に向けての努力を支援すること（他者受容感につなげる）が必要である。

3 やる気を引き出す目標設定の方法

本研究では、やる気を引き出す目標設定の方法に、メンタルトレーニングの手法を取り入れる。

(1) メンタルトレーニングについて

一般的にメンタルトレーニングの目的は、スポーツなどの競技力の向上としているが、その対象には、教育、健康、ビジネスも含んでいる。「向上」を目的に、中学生の進路指導（やる気や学力向上）、

生活指導（自分の人生における向上）、健康増進（生活面における心身の向上）などにも応用できる。つまり、メンタルトレーニングは、さまざまな分野における「向上」を一つの目的としており、人間の気持ち、感情、考え方、集中、やる気といった心・心理・精神などと呼ばれているもの（メンタル面）に関して準備・トレーニング・強化をするというものである。

(2) メンタルトレーニングの手法

主に以下の手法を取り入れ、自分のやりたいことややるべきことに対して、積極的に取り組み、「向上」や「成功」へと向かわせる原動力とする。

① 目標設定

やる気を高める目的で行う。自分の夢ややりたいことを目標として決めることであり、また、自分の立てた目標に対してプランを立て実行する中で、達成するのだという気持ちでやる気を高める。

② イメージ

成功した最高の状態をイメージして、それを目指そうというところからやる気を高める。

③ プラス思考

何事も前向きに考えれば、失敗しても気持ちを切り替えられる。また、素直な気持ちで教師や友人のアドバイスを受け入れることによりやる気を高める。

④ セルフトーク

自分自身と話をすることであり、自分で自分に自己暗示をかける。たとえば、「絶対できる。」とか「Never give up!」など自分を奮い立たせる言葉で気持ちを高める。

(3) 目標設定の方法のポイント

メンタルトレーニングの手法を取り入れた内発的動機づけを高めるための目標設定の方法のポイントは次の通りである。以下の内容を踏まえて、目標設定用紙(資料1)に目標と学習計画を記入する。

① 自己決定感を高める

ア 自己分析をする。

自分ができること、できなかったこと、努力すればできることなど、成功の要素と失敗の要素を把握し、高すぎず、低すぎない自分にあった目標を設定する。

イ 達成期限を決める。

期日を決めて、達成に向けての具体的なプランを立てる。

ウ 目標達成までの期間を細分化する。

週の目標、それを達成するための日々の行動目標などと目標達成までの期間を細分化し、日々やるべきことを明確にする。

エ 目標達成を阻むものを洗い出し、その対策を立てておく。

例えば、自分の立てた学習計画に対し、「見たいテレビがある。」「部活で疲れるから勉強できない。」などの問題点を前もって予測し、その対策を立てておく。そのことで安心感が生まれ、行動しやすくなる。

② 自己有能感を高める

ア 確実に達成できそうな目標から始める。

小さな成功を繰り返し、達成感を味わう。一步一步前進することで大きな成功につなげる。

イ 検証できる明確で具体的な数値目標にする。

目標設定用紙(学年末テストに向けて)

氏名		今日の日付 月/日/年	目標達成日	学年末テスト
最高の目標	全部 95点以上			
最低限の目標	最低でも 80点以上(希望)			
今回の目標	全部 90点以上 (努力)			
目標達成シーンのイメージ	でいかに がんばろう!!!			
週の目標	(2)月(6)日～(2)月(12)日までの目標 (本日は)まだ、前のも思い出して、 はから、プリントを毎日見直し、 がんばる!! 教科書中心にやる		(2)月(13)日～(2)月(19)日までの目標 ノート・教科書・プリントを 全部(本日は) 見直し、がんばってがんばる	
予想される障害	別 紙			
① テレビ	① 「本日は見直し」を2回やる			
② 部活	② テキストを10分ほどやる			
③ 宿題	③ ある日はテストで勉強する			
④	④			
⑤	⑤			
学習計画(無理せず、実行可能な計画を)				
2/6 (日)	英語・本日は全部終わらせる!! 文法でわかる、使い方をいかりおぼえる			
2/7 (月)	数学・正負の数と比の応用まで、復習しておぼえる!!			
2/8 (火)	国語・ワーク・プリントを中心に勉強する。			
2/9 (水)	理科・教科書などから、大切な所を 覚える!!			
2/10 (金)	社会・学習の友に 必ずおぼえて、教科書を ひたすら読む			
2/11 (土)	家庭学習 教科書 ワーク プリントを...!! がんばっておぼえる!!			
2/12 (日)	国語 見直しを 10分ほどやる!! 復習のていど			
2/13 (日)	国語 プリントを 覚えて、がんばりに 勉強する			
2/14 (月)	数 プリント中心にやる!! 10分ほどやる!! 復習のていど			
2/15 (火)	社 学習の友 覚えて、教科書を 10分ほどやる!!			
2/16 (水)	理 プリントを 中心にする。教科書を 10分ほどやる!!			
2/17 (金)	数 復習 がんばる!! 復習のていど 10分ほどやる!!			
2/18 (土)	国社理 がんばって覚える!! プリントを 中心に 勉強する			
2/19 (日)	家庭学習 覚えて!! 大事な所は がんばって 復習する			
達成へのセルフトーク	絶対にできる!! がんばる!!			
目標達成のために励まし合いの人: 友達の				

資料1 目標設定用紙

「成績を上げる。」とか「一生懸命がんばる。」ではなく、「何点以上とる。」「何点以下をなくす。」などの目標にする。

ウ 「最高の目標」と「最低限の目標」を設定し、その幅のなかから今回の目標を設定する。

目標に幅を持たせ、その中に「今回の目標」を設定することで、目標のぶれがなくなり、上方・下方修正をしないですむ。また、目標の幅を知ることによって、高望みをしたり、不安を抱いたりしないですむようになり安心して活動できる。

エ 目標達成シーンをイメージする。

常に目標達成シーンをイメージすることで、それを目指そうとするやる気を高める。

オ 失敗を恐れない。

たとえ失敗しても、目標に向けての前進であると捉え、何が悪かったかを確認し、明日につなげる。常にプラス思考で進む。

③ 他者受容感を高める

ア 他の人と励まし合う。

家族や友人と励まし合いながら目標達成を目指す。

4 学年の協働支援

学年の協働支援を行うには、まず教師自身が自発的、積極的に学級、学年経営に参加しなければならない。教師に「やる気」がなければ生徒の「やる気」は育たない。学年主任を中心とし、共通の目標に向かって実践しようとする意欲が必要である。

そのためには、学年主任のリーダーシップが大切である。学年主任は、学年間の目標を協議・作成する過程を大切に、適切な「連絡・調整」ならびに「指導・助言」を行わなければならない。そして、P（計画）－D（実践）－C（評価）－A（改善）のサイクルを一人一人の教師に意識づけ、実践させることが肝要である。

本研究では、学年による協働支援を行うために、以下のように取り組む。

- (1) 学年主任の指導により、学年教師が目標設定の方法を理解する。
- (2) T・Tにより、生徒への目標設定の指導を行う。
- (3) 生徒の設定した目標を学年教師が把握し、支援への見通しを持つ。
- (4) 学年会で、達成に向けての手だてや方策を話し合う。
- (5) 日々授業中の支援と激励を行う。
- (6) 担任および副担任による日々の行動目標のチェックと激励メッセージの記入を行う。
- (7) 家庭との連携を図るため、保護者に「日々の目標チェックカード」に激励メッセージを書いてもらう。
- (8) 学年会で、生徒の一週間の自己評価の実施と分析、それをもとにした次週の支援のあり方の確認をする。
- (9) 学年集会で、生徒の取組状況を紹介する。

Ⅲ 研究の実践

1 目標設定の指導（実践1）

これまで、様々な場面で生徒に目標を立てさせてきたが、ただ生徒任せになり、効果的な目標設定方法を指導していなかった。そのため、生徒が目標に向かってやる気を持って取り組む姿が見られない場合があった。

そこで学年末テストを機会に、効果的な目標設定の方法を指導し、その達成に向けて計画を立てて学習する意欲を高めようとする授業を行った。

(1) 題材名 「学年末テストの目標と学習計画を立てよう」

(2) 題材について

① 題材観（省略）

② 生徒観（一部省略）

2学期期末テスト終了後、生徒の学習活動における目標の持ち方、目標の達成感、周りの支援状況を把握するために、1年生全員72人を対象にアンケートを実施した。その結果、以下のような事がわかった。

ア 目標設定について（自己決定感）

ほとんどの生徒が「目標を設定することは大切だ」と思っているが、「どのように目標を設定したらいいかわからない」ために、目標を設定し学習計画を立てることができない。

イ 目標の達成感について（自己有能感）

「自分もやればできると思う」、「次のテストは、一生懸命勉強したい」と思っている生徒は比較的多いが、「意欲的に勉強できた」、「目標は達成された」と感じている生徒の割合が少ない。

ウ 周りの支援状況について（他者受容感）

「励まし合える友人はいるが」、「家族」、「教師」に支援されていると感じている生徒の割合は少ない。

③ 指導観（一部省略）

本題材「学年末テストの目標と学習計画を立てよう」においては、生徒に学年末テストの目標設定と学習計画を立てさせる。その場合、これまでのような生徒任せではなく、効果的な目標設定の方法を指導し、それをもとに目標達成のための具体的な計画を立てさせたい。

そこで、目標設定の方法にメンタルトレーニングの手法を用いる。自己分析により、自分にできることや努力すればできそうなことを把握し、自分にあった目標を設定することで自己決定感を高めるようにしたい。その目標を二週間ごとの目標、一週間の目標、日々の目標と細分化し、達成するためにやるべき事を明確にさせる。確実に達成できる目標から始め、小さな成功を繰り返し、自己有能感を高め、一步一步前進していくことを強調したい。また、目標達成に向けて、友人同士の励まし合いや多くの先生方が協働して支援することを意識づけることで、他者受容感を高め、やる気を持って学習に取り組ませたい。

本時はティームティーチングで行い、より多くの生徒に細かく目を配れるようにする。導入時においてアンケートの結果を示し、目標を設定することの大切さを確認する。そして、学年末テストの1ヶ月前から具体的な目標と学習計画を立てさせることを通して、効果的な目標設定の方法を理解させたい。

(3) 活動計画

活 動 内 容	活動形態	時 間	活 動 ね ら い
2学期期末テストの反省、アンケートの実施	学級活動	5校時	自己分析をし、次のテストの計画に役立てるようにする。
生徒の反省、自己分析を共通理解	学年会	放課後	生徒の反省、自己分析をもとに指導方針と支援の手だてを確認する。
メンタルトレーニングと目標設定について	学年会	放課後	メンタルトレーニングの手法を用いた目標設定の方法を共通理解する。
目標設定の方法を学ぼう（本時）	学級活動	5校時	効果的な目標設定の方法を指導し、具体的な学習計画を立て、目標を達成しようという意欲を高める。
学年末テストに向けての目標設定と学習計画①	学級活動	5校時	テスト1ヶ月前から2週間前までの学習計画を立てる。
1週間の生徒の状況、支援方法を確認	学年会	2校時	生徒の目標を学年教師が確認し、支援方法を話し合う。
学年末テストに向けての目標設定と学習計画②	学級活動	5校時	テスト2週間前の学習計画を立てる。
1週間の反省、自己評価（アンケート）	学級活動	帰りの会	1週間を反省し、次週の計画に生かせるようにする。
毎週の学年会（火曜日の2校時）において、生徒の状況を把握し、支援の方法を話し合う。（必要に応じて臨時に開くこともある）			

(4) 本時の学習

① 題材名「目標設定の方法を学ぼう。」

② 本時のねらい

効果的な目標設定の方法を理解することにより、具体的な学習計画のもとで、目標を達成しようとする意欲を高めることができる。

③ 本時の授業仮説

メンタルトレーニングの手法を用いた目標設定の方法を指導すれば、目標を達成しようとする意欲が高まるであろう。

④ 本時の展開

過程	生徒の活動	教師の支援		指導上の留意点・検証場面
		T 1	T 2	
導入 10分	1 アンケート結果をみる。	アンケート結果の説明	資料掲示	目標の設定の仕方がわからないために学習計画が立てられないことを説明する。
	2 今日のめあてを確認する。	目標を持つことはとても大切であることを確認する。	めあての掲示	
展開 10分	3 目標設定の方法の説明を聞き、ワークシートに目標設定の練習をする。 (仮の目標の設定)		ワークシートの配布	自己分析をもとに考えさせる。 がんばれば絶対できる目標にすることを強調する。 ★目標設定の方法を理解しているか。 (ワークシートへの記入で検証する。)
	(1) 目標達成期日を決める。	達成期日を期末テスト最終日とする。		
	(2) 自分にあった目標にする。	具体的な例を挙げる。	補足説明	
	(3) 「最高」と「最低限」の目標を設定し、その幅の中から「今回の目標」を設定する。	・5教科の合計点が450点以上 ・英語を50点以上とる ・単語と漢字だけは全問正解		
	(4) 検証できる具体的な数値目標にする。	何名か発表させる。	机間指導、支援 ・目標記入の支援 ・発表者の選出	
5分	(5) 目標達成シーンをイメージする。	イメージの例を挙げる		やる気になるようなイメージを。
展開 15分	(6) 目標達成までの期間を細分化する。 ・週の目標 ・日々の行動目標		補足説明	日々の行動目標は、家庭学習面でも授業面の目標でも良い。 日々の行動目標は、がんばれば確実にできるものにする。 ★学習計画を立てているか。 (ワークシートへの記入で検証する。)
	(7) 確実に達成できそうな目標から始める。			
	4 一週間の学習計画を立てる。	机間指導、支援	机間指導、支援 ・計画記入の支援	
	(8) セルフトーク	セルフトークの例を挙げる。		
	(9) 友人との励まし合い			
10分	5 先生の話聞く。	目標達成への心構えを話す。		一步一步目標を達成し、前進していくことと、友人や先生方が目標達成のために支援していくことを確認する。 ★目標達成に向けて意欲が高まっているか。 (ワークシートの自己評価で検証する。)
	6 自己評価		机間指導、支援	

(5) 授業仮説の検証

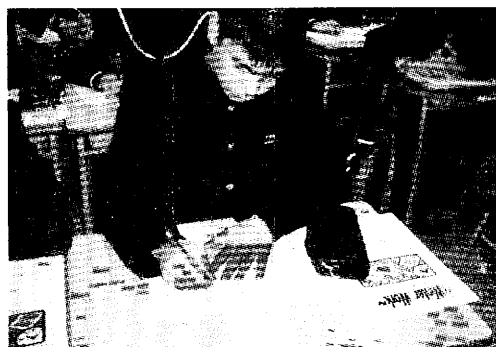
メンタルトレーニングの手法を用いた目標設定の方法を指導することで、目標を達成しようとする意欲が高まったか。

表 1 検証授業後の自己評価の集計（人数：計 36 人）

授業終了後の生徒の自己評価の結果を表 1 に示す。目標設定の方法が「よくわかった」、「まあまあわかった」と答えた生徒は合わせて 35 人 (97%)、目標を「設定できた」、「まあまあ設定できた」と答えた生徒は合わせて 33 人 (92%) である。そして、目標達成の意欲が「出てきた」、「まあまあ出てきた」と答えた生徒を合わせると 32 人 (89%) である。以上の結果より、目標設定の方法を理解することで、目標を達成しようとする意欲が高まったといえる。

質 問 項 目	評価と人数			
	4	3	2	1
①先生の説明はわかりやすかった	16	19	1	0
②目標設定の方法がわかった	16	19	1	0
③目標を設定できた	12	21	3	0
④学習計画を立てられた	12	20	3	1
⑤自分もやればできると思う	14	18	4	0
⑥目標達成の意欲が出てきた	12	20	4	0

4：とても思う 3：まあまあ思う
2：あまり思わない 1：全く思わない



目標設定の様子



目標達成シーンをイメージ中

2 学年の協働支援の実際(実践 2)

(1) 学年会における協働支援への取組

① 目標設定の方法の理解

学年会において、学年主任の指導のもと目標設定の方法を話し合い、学年教師が理解し、指導できるようにする。

② 生徒の設定した目標の確認

学年全生徒の目標や学習計画を一覧にし、学年教師が確認する。目標達成に向けての支援の方法を確認し、教科担任への協力も依頼する。特に支援の必要な生徒への支援の方法、目標や学習計画が適切でない生徒へのアドバイスについても話し合う。

③ 生徒の自己評価の分析

週末に、生徒に一週間の活動を振り返る自己評価をさせる。それを分析し、生徒の学習状況を学年で把握する。そして、次週の生徒への支援のあり方を工夫・改善する。

④ 学年集会の計画

学年集会を開き、数人の生徒の取組状況や保護者の意見を紹介する。そのことで生徒に刺激を与え、やる気を促す。

(2) 生徒への協働支援

① T・Tによる目標設定の指導

目標設定の指導や学習計画を立てさせる際は、担任だけではなく副担任等複数の教師が入り、より多くの生徒に目が届くようにし、適切なアドバイスができるようにする。特に支援が必要な生徒



学年会にて生徒の目標を確認する

にも気を配り、他者受容感につなげる。

② 「日々の目標チェックカード」の活用

資料2は、資料1で立てた目標を細分化し、一週間の行動目標を書いたカード（「日々の目標チェックカード」）である。このカードを活用し、以下の支援を行う。

ア 日々の授業中の支援と激励

生徒は、授業中常にカードを机上に提示しておく。授業者は、机間指導等を利用して、目標達成に対するアドバイスなどできる限り生徒へ声をかけ激励する。

イ 友人との励まし合い

カードに好きな友人同士で励ましのメッセージを交換する。

ウ 学年教師の激励

カードを週に2～3回収し、学年教師が交代で激励メッセージを記入する。

エ 保護者の激励

カードを毎週金曜日に家庭に持ち帰らせ、保護者の激励メッセージをもらう。保護者が子供の学習状況を把握する機会にもなる。

(3) 実践2の考察

実践2について、学年教師(5人)にアンケートを実施した。その結果を表2に示す。

表2 学年教師へのアンケート結果

質 問 項 目	評価と人数			
	4	3	2	1
①目標設定と学習計画の立てさせ方がわかった。	5	0	0	0
②学年で、生徒の立てた目標や計画を確認することができた。	1	4	0	0
③生徒への励ましや支援ができた。	1	4	0	0
④生徒の学習意欲が高まったと思う。	3	2	0	0

4：とても思う
3：まあまあ思う
2：あまり思わない
1：全く思わない

① やる気を引き出す目標設定の方法を学年教師が共通理解したか。

「目標設定と学習計画の立てさせ方がわかったか」という設問に対し、全員が「よくわかった」と答えていることから、やる気を引き出す目標設定の方法を学年教師が理解したといえる。

② 生徒の設定した目標を学年教師が確認し、目標達成に向けて協働して支援できたか。

「学年で、生徒の立てた目標や計画を確認することができたか」、「生徒への励ましや支援ができたか」という設問に対して、全員が「よくできた」、「まあまあできた」と答えている。また、資料3のような支援の様子を述べていることから、生徒の設定した目標を学年教師が確認し、目標達成に向けて協働して支援できたといえる。

- ・T・Tにより、その生徒に合った計画を立てさせることで、生徒の様子を知ることができ、声かけをすることができた。
- ・朝の会、帰りの会、授業等で、常に声をかけることができた。
- ・激励メッセージを書いた後、生徒からお礼を言われた。また、応援していこうという気持ちになった。

資料3 学年教師の支援の様子

日々の目標チェック

氏名:

今週の目標:「トロッコ」の漢字を覚える 理科の「水溶液の性質」やる ○×

日付	日 々 の 目 標 (授業・家庭学習)	自己評価
1/23(月)	「トロッコ」の漢字80覚える	○
1/24(火)	「トロッコ」の漢字80覚える	○
1/25(水)	理科教科書 P59 水溶液 濃度 純粋な物質	○
1/26(木)	理科教科書 P62 結晶 溶解度と再結晶	○
1/27(金)	「トロッコ」の漢字80覚える	○
1/28(土)	理科教科書 P64 酸性・アルカリ性	○
1/29(日)	「トロッコ」の漢字80覚える	○

セルフトーク できる!!! 頑張ろう!!

友人より♡♡

テストのはい、広いカド、みんなぞががんばる!! ♪

毎週金曜日目指せえ~~~~!! Yuno ☺

先生より「トロッコ」での漢字80覚える。けいめいおね! 私は漢字好きで、(トロッコ)の漢字80覚える。計画的にがんばって下さい。目標達成がんばっていますね! 応援しています!!
You can do it! (あなたならできる) mariko

保護者より
毎日がんばっているのだからいいと思います。
これからもコツコツと続けね

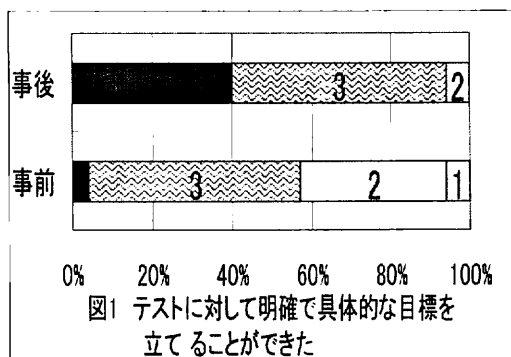
Ⅳ 研究の考察

生徒のやる気の高まりを、自己決定感、自己有能感、他者受容感が高まり、意欲的に学習できたかで検証する。

2学期期末テスト終了後に行ったアンケートを実践後にも行った。その結果の比較、そして学年教師および保護者の感想を通して、上の要素について考察する。

1 生徒は目標を設定することができたか。(自己決定感)

図1は、「テストに対して明確で具体的な目標を立てることができた」という項目の結果である。「とても思う」、「まあまあ思う」と答えた生徒を合わせると、実践前は57.1%であったが、実践後は94.1%になった。また、「全く思わない」と答えた生徒は0%になった。この結果により、生徒は明確な目標を設定することができ、自己決定感が高まったといえる。

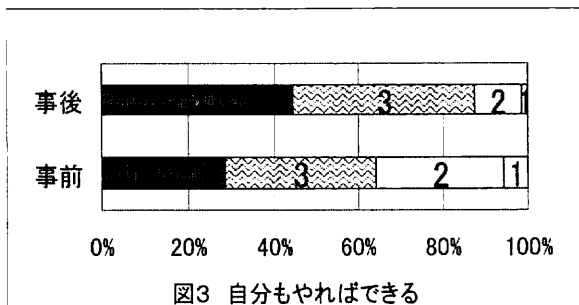
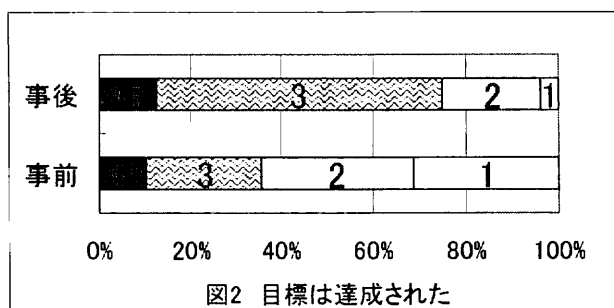


4: とても思う 3: まあまあ思う
2: あまり思わない 1: 全く思わない

2 生徒は目標達成感を味わったか。(自己有能感)

図2は、「目標は達成された」という項目の結果である。「とても思う」、「まあまあ思う」と答えた生徒が、35.7%から75.0%になった。また図3は、「自分もやればできる」という項目の結果である。「とても思う」、「まあまあ思う」と答えた生徒が、64.3%から87.5%になった。

以上のことから、生徒は目標達成感を味わい、自己有能感が高まったといえる。

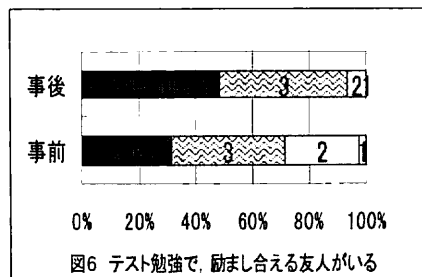
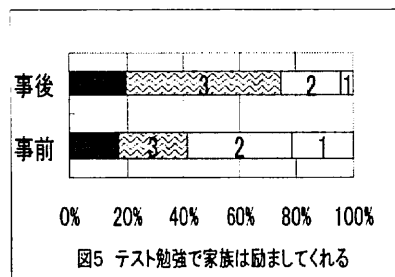
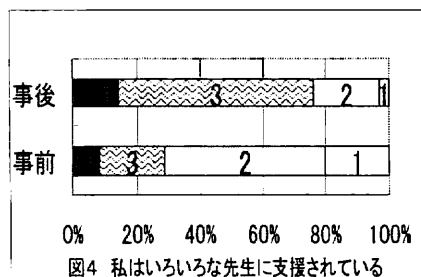


3 生徒は周りの支援を感じるようになったか。(他者受容感)

図4は、「私はいろいろな先生方に支援されている」、図5は、「テスト勉強で家族は励ましてくれる」、図6は「テスト勉強で励まし合える友人がいる」という項目の結果である。いずれの結果も、実践後は「とても思う」、「まあまあ思う」と答えた生徒の割合は増加している。

特に、「私はいろいろな先生方に支援されている」と感じている生徒が28.6%から76.1%に、「テスト勉強で家族は励ましてくれる」と感じている生徒が41.6%から74.6%へと大きく変化した。また、「テスト勉強で、励まし合える友人がいる」で、「全く思わない」という生徒が0%になった。

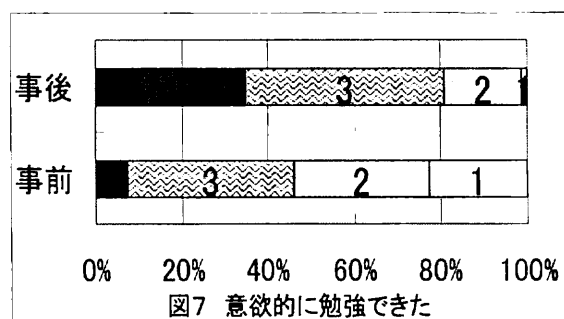
以上のことから、生徒は周りの支援を感じ、他者受容感が高まったといえる。



4 生徒は意欲的に勉強できたか。

図7は「意欲的に勉強できた」という項目の結果である。「とても思う」、「まあまあ思う」と答えた生徒が、45.7%から81.7%になった。特に、「とても思う」と答えた生徒の割合は、7.1%から34.7%になった。

また、保護者へ子供の学習状況についてのアンケートを行った（69人が回答）結果、子供が「前に比べて勉強するようになった」と答えた保護者が、72.5%いた。



さらに、学年教師の感想（資料4）、保護者の感想（資料5）からも、生徒が意欲的に勉強するようになった事がうかがえる。

以上のことから、生徒は意欲的に勉強できたといえる。

- ・1日1日の目標を立てることで、意欲的に学習に取り組む生徒が増えてきていると思う。
- ・以前より、家庭学習ノートが提出されるようになり、その質も数段よくなった。
- ・週を追うごとに学習への意識が高まり、意欲的に取り組む生徒が増えてきた。

資料4 学年教師の感想

- ・部活で疲れて帰ってきても、計画した今週の目標達成に向けて、親が何を言わなくても自らの意志で机に向かっている姿が見られ、時間を有効的に活用しているように見えます。
- ・学校と親が相互に励まし合うという取組は本当に我が子にとって良かったと思います。計画を立てて学習するようになったし、苦手な英語にも挑戦するようになりました。親も子供の勉強に関心を払うようになったと思います。
- ・自分で机に向かう姿勢が出てきたことは大きな進歩だと思います。まだ勉強の仕方がわからない子なので、我が子にあった応援をしていきたいと思っています。
- ・前もって計画が立てられているので、以前のように何を勉強しようかと迷わずにスムーズに学習できているようです。

資料5 保護者の感想(抜粋)

1～4の考察から、生徒は自己決定感、自己有能感、他者受容感が高まり、意欲的に勉強するようになったと判断でき、生徒はやる気を持って学習活動に取り組むことができたといえる。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 生徒が目標を持つことの大切さを理解し、その達成に向けてやる気を高めることができた。
- (2) 生徒の学習意欲を高めるという共通の目標に向けて、学年の協働体制を整えることができた。
- (3) 家庭と学校が生徒の目標達成に向けて共通認識を持ち、支援できた。

2 今後の課題

- (1) 学年の協働体制を継続していくための実践方法の工夫・改善
- (2) 学習以外の日常活動にもやる気を持って取り組ませる実践の工夫

<主な参考文献>

下村哲夫監修	『学年経営の実務マニュアル』	明治図書	1996年
桜井茂男著	『学習意欲の心理学－自ら学ぶ子どもを育てる』	誠信書房	2005年
高妻容一著	『今すぐ使える メンタルトレーニング』	ベースボールマガジン社	2005年
原田隆史著	『成功の教科書』	小学館	2005年